

岡山市役所政策企画課令和 6 年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト活動報告

中学生による地域住民への 防災認知向上プロジェクト

(発表者) 白銀美里・田村陸叶

(団体名) 地域防災プロジェクトチーム

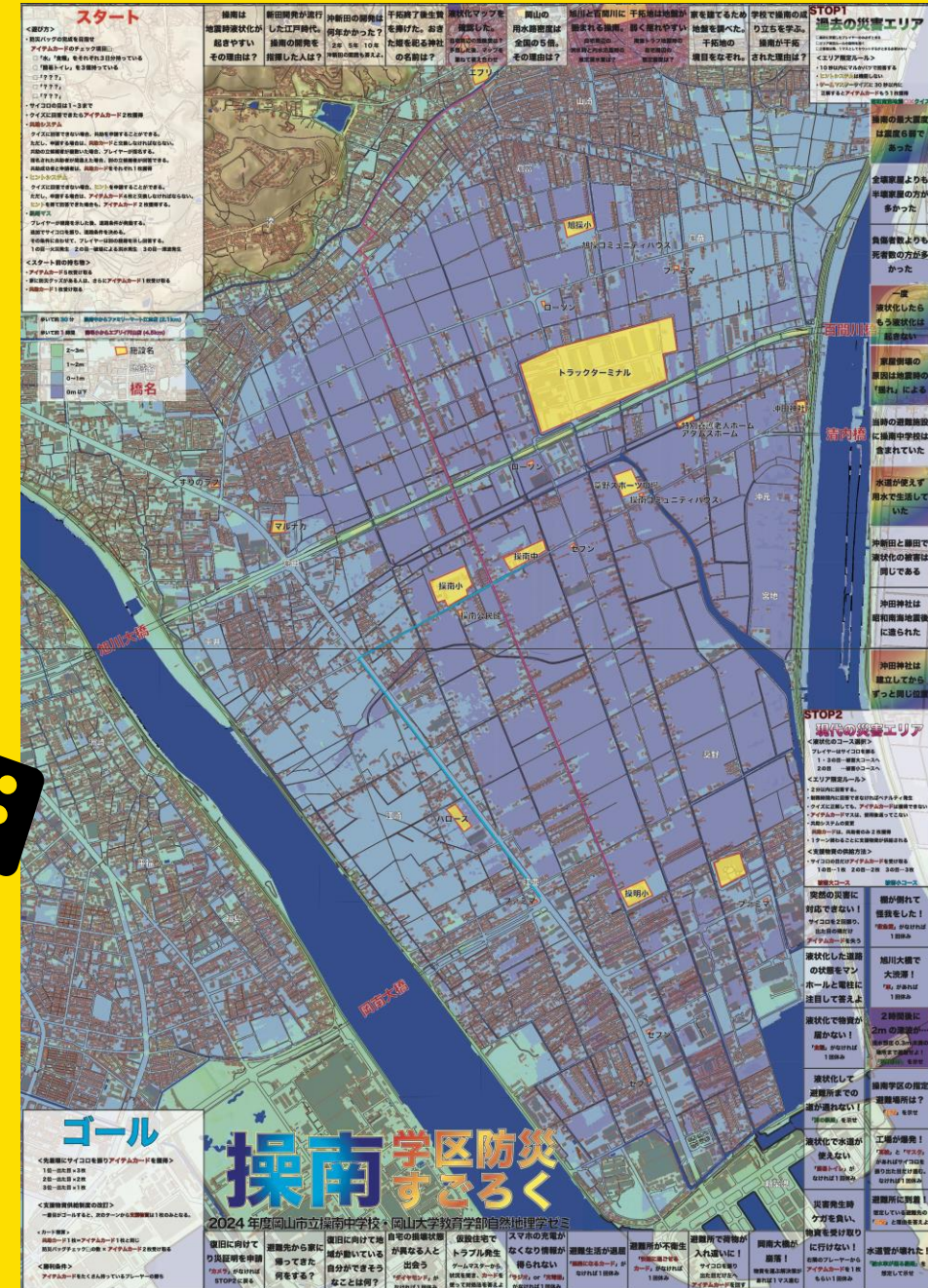
(メンバー) 岡山大学教育学部自然地理学ゼミ

岡山市立操南中学校の生徒と



を作成

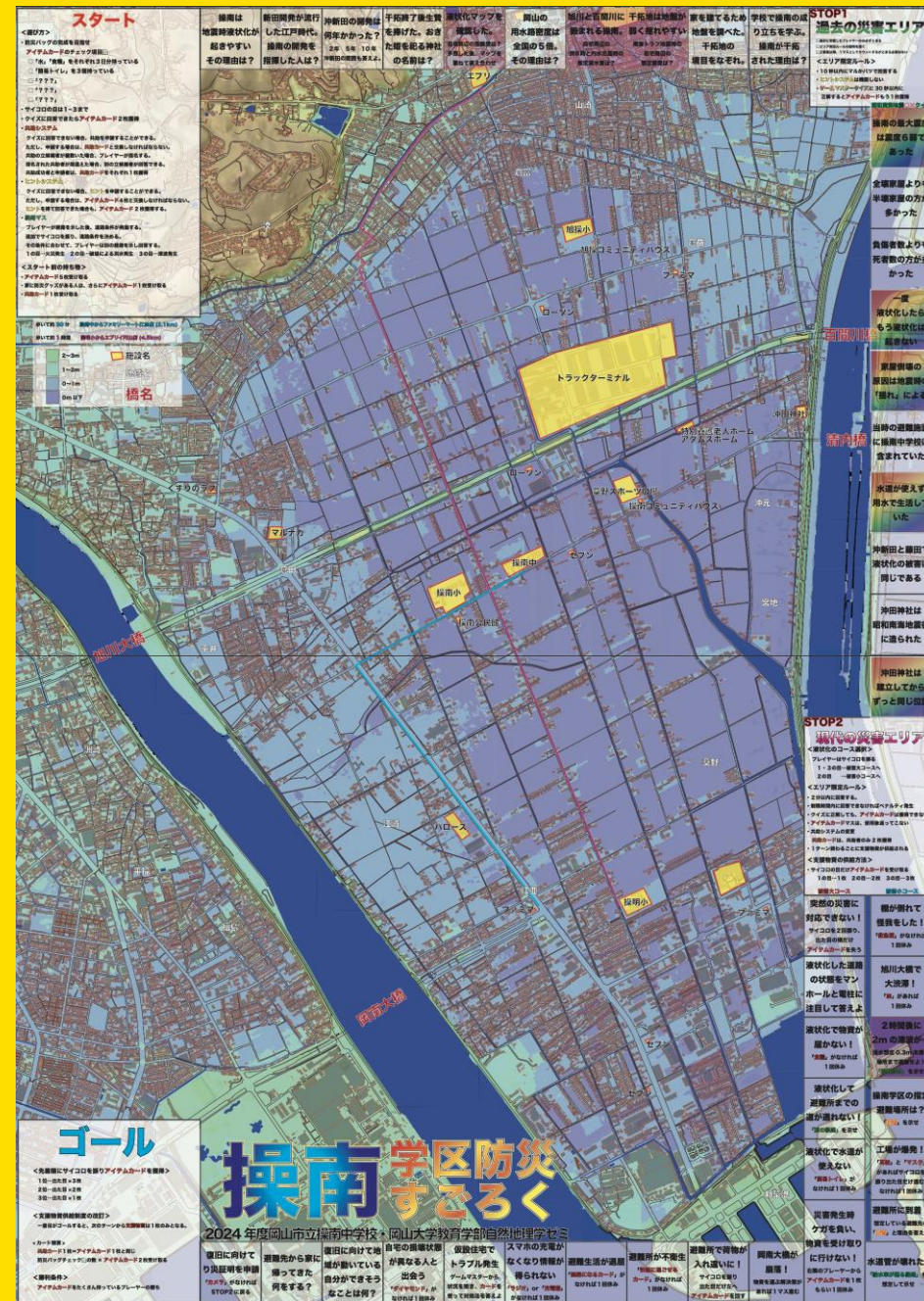
操南公民館で地域の方と実践！



報告内容

岡山市立操南中学校の生徒と

1. 本プロジェクトの意義
2. 防災すごろく作成の過程
3. 防災すごろく実践の様子
4. 本取り組みの検証結果
5. 操南公民館で地域の方と実践！
今後の活動



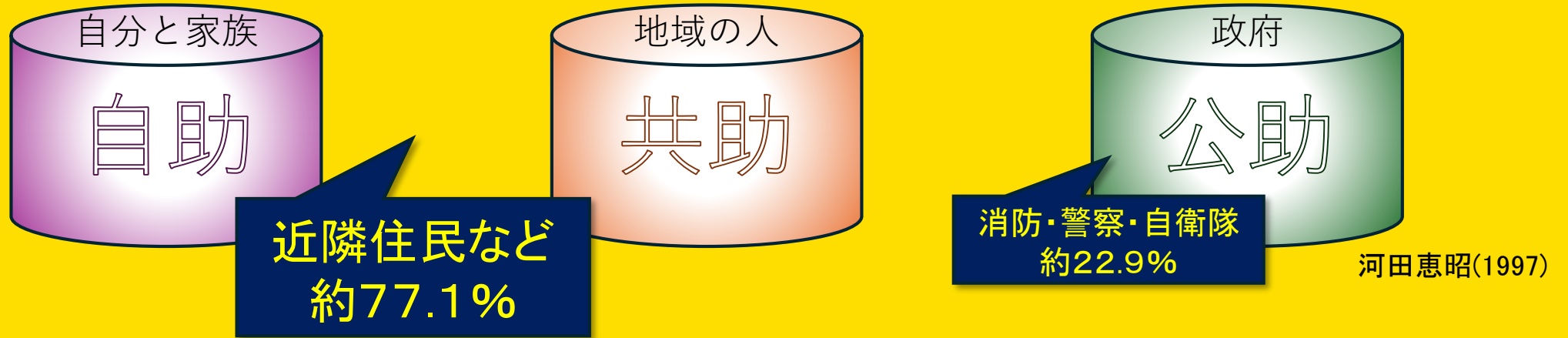
報告内容

1. 本プロジェクトの意義
2. 防災すごろく作成の過程
3. 防災すごろく実践の様子
4. 本取り組みの検証結果
5. 今後の活動

報告内容

1. 本プロジェクトの意義
2. 防災すごろく作成の過程
3. 防災すごろく実践の様子
4. 本取り組みの検証結果
5. 今後の活動

阪神・淡路大震災における救助の主体



救助と消化活動を同時に行うことによる行政麻痺
一刻を争う救助活動だが、迅速な到着は困難



広域的な大規模災害における公助の限界

昭和南海地震 岡山県南部で大きな被害

問題意識

南海トラフ地震に備え、減災に不可欠な
「自助・共助」を高める防災教育を岡山で行いたい！

イノベーションチャレンジ

防災教育の課題

文科省(2007)

①災害への理解を深め主体的な防災行動を育む

防災教育の素材やコンテンツの成果の共有が不十分

②学校と地域の相互交流を通して、

効果的な災害対応を担う社会構造を目指して、
地域コミュニティの構築へ寄与する

子どもの頃から防災知識や主体的な防災行動を身につける

防災意識が醸成された地域コミュニティを育てる

報告内容

1. 本プロジェクトの意義
2. 防災すごろく作成の過程
3. 防災すごろく実践の様子
4. 本取り組みの検証結果
5. 今後の活動

学区に根差した防災教育

地域の地理的条件を知るエリア

操南地区の地理的特徴である「地盤のゆるさ」や「干拓地」としての操南地区の成り立ちについて知る。

過去の災害を学ぶエリア

過去の昭和南海地震における被害状況を学ぶ。

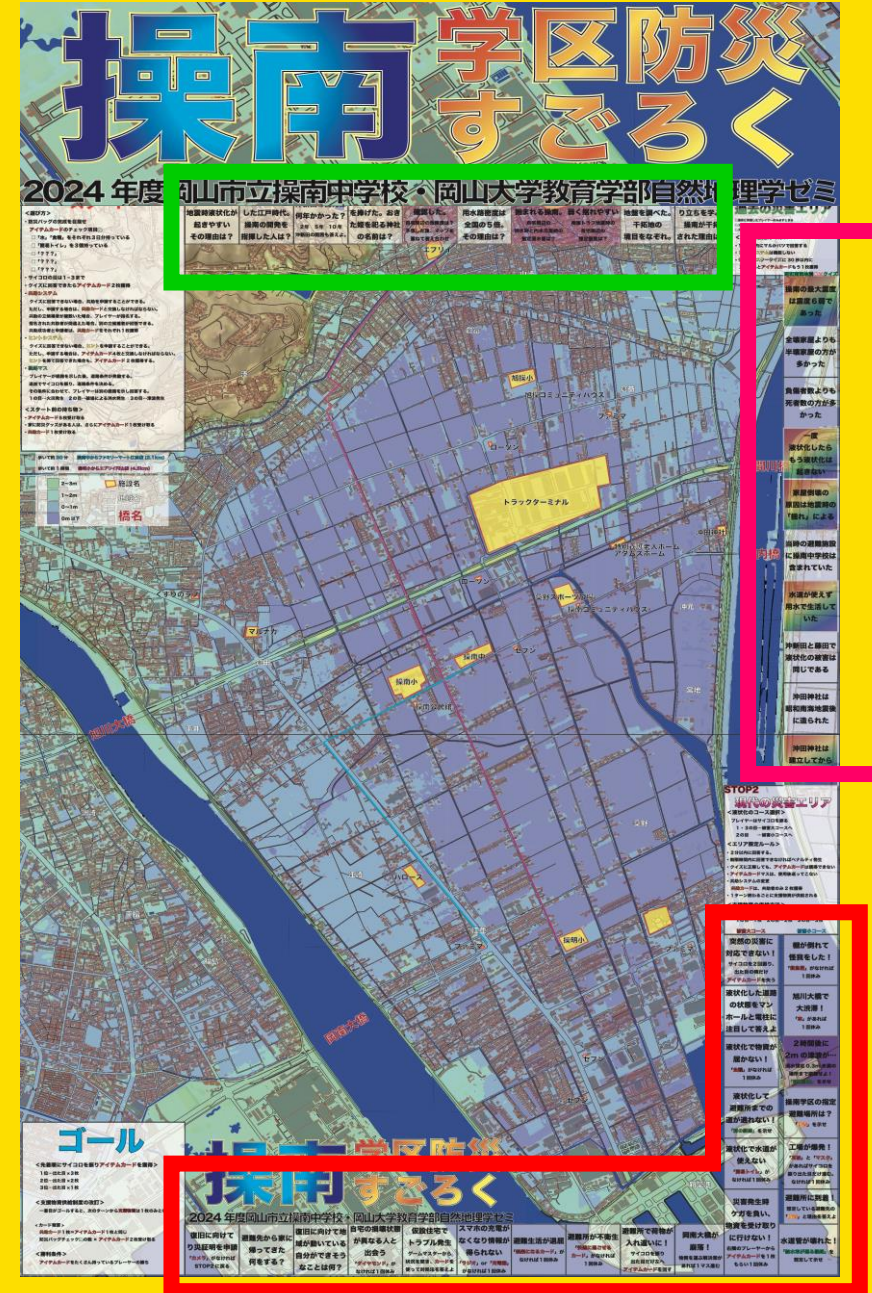
現代の災害を考えるエリア

地域の地理的条件や過去の災害をもとに、現代における災害の被害を想定する。

* 共助システム

クイズの答えが分からない・アイテムカードを持っていない等
すごろくプレイ中に困ったとき、プレイヤー同士は助け合う
ことができる

⇒ 「共助」の意識



ワークショップ

日付	ワークショップの内容
11/21	防災すごろく作りの意義を理解する時間
12/10	富山学区防災すごろくをプレイし見通しをもつ時間
12/19	いま災害が起きたらどんな被害が起こるか想定する時間
1/8	すごろくマス・ルールを考える時間

報告内容

1. 本プロジェクトの意義
2. 防災すごろく作成の過程
3. 防災すごろく実践の様子
4. 本取り組みの検証結果
5. 今後の活動

報告内容

1. 本プロジェクトの意義
2. 防災すごろく作成の過程
3. 防災すごろく実践の様子
4. 本取り組みの検証結果
5. 今後の活動

防災すごろく作りの教育効果

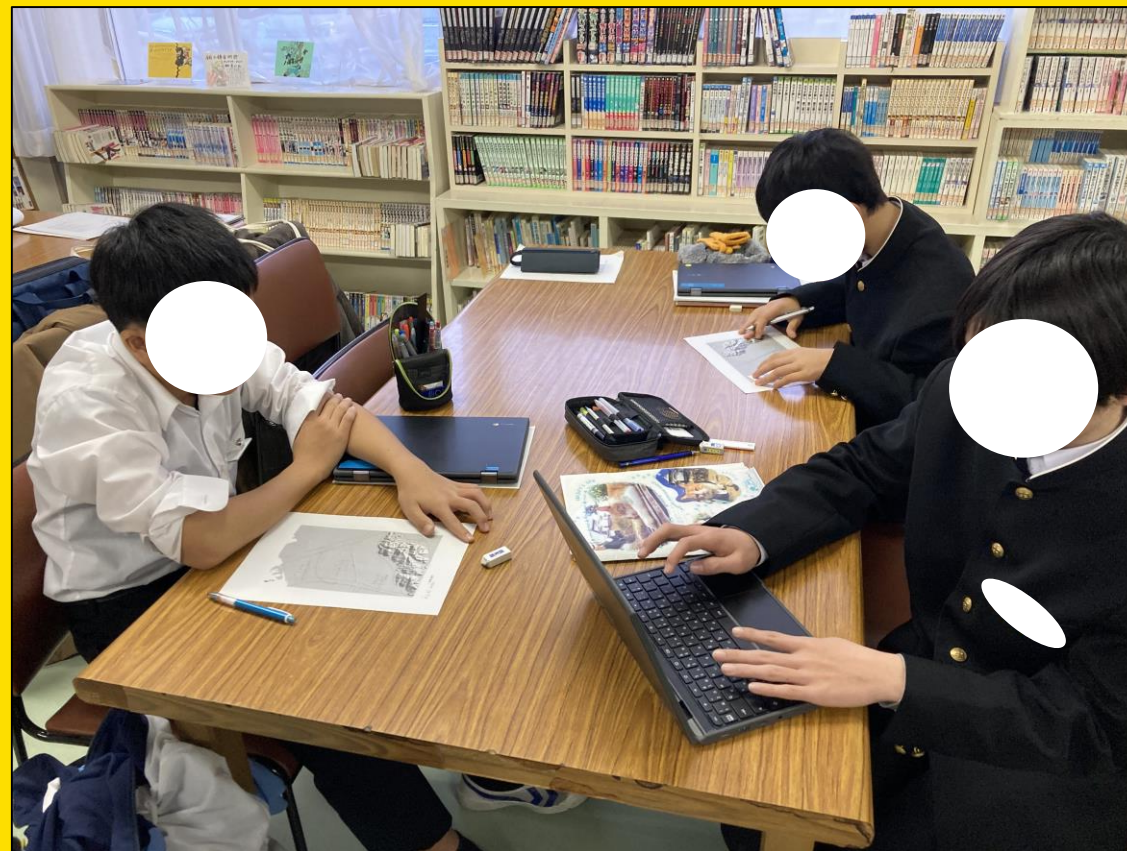
主体的な防災行動を身につけることにつながってる？

防災行動をとるために必要なこと

災害リスクを踏まえた被害想定をすること
災害に対する過剰な不安感を持たないこと

効果検証

「被害想定能力」は向上する？
災害への「不安」は低下する？



第3回調査における被害想定力の測定結果

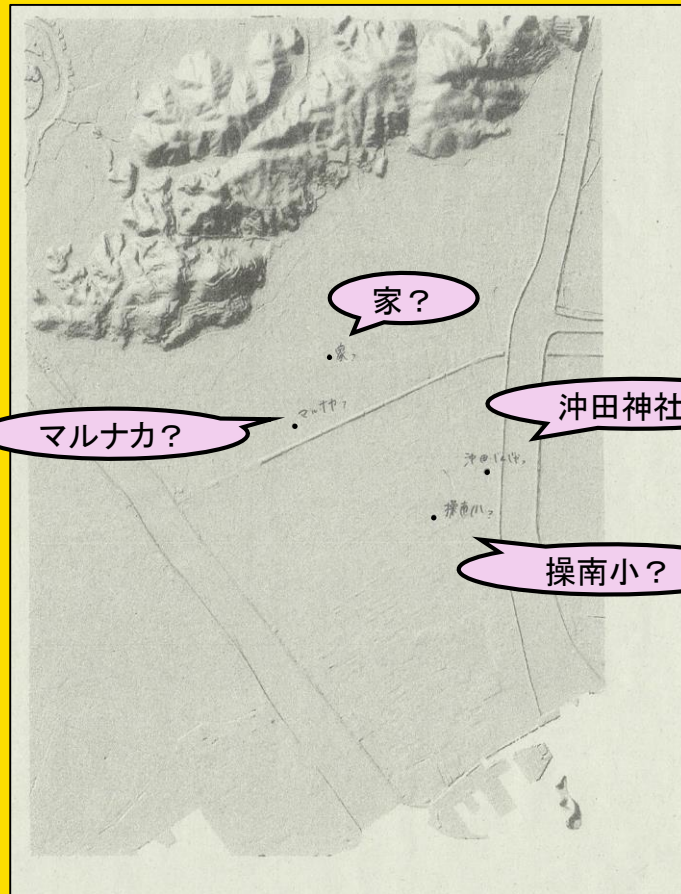
- 参加者8名のうち**5名**に「地域性を踏まえた」回答が確認できた。

「地域性を踏まえる」の定義

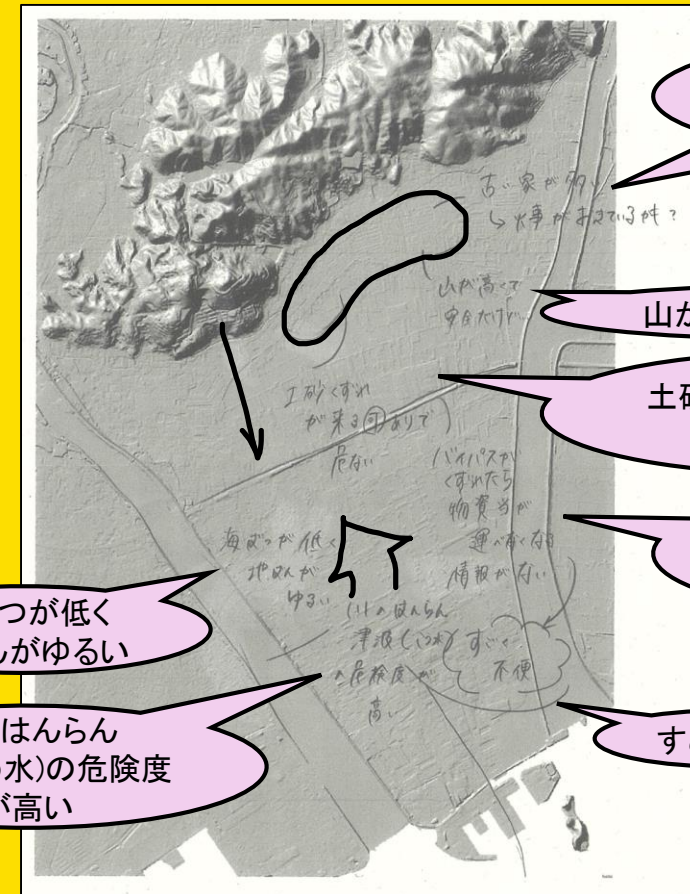
- ①一般的な自然災害の知識に加え、操南地区の**自然素因**である「地盤のゆるさ」やそれに伴う「液状化」を記述できている。
- ②操南地区の自然素因を踏まえて、**被害を具体的に想定**していることが確認できる。
Ex. 液状化による電柱や建物の倒壊，木造家屋の密集による火災規模の拡大

「被害想定能力」の測定結果

さまざまな被害を想定できるようになった



すごろく作りの前



すごろく作りの後

防災意識と災害への不安傾向

防災意識…災害に対して日常的に、自ら被災しうる存在であることや、
情報的・物的・社会的備えが必要であることを認識している度合い。
(島崎・尾関, 2017)

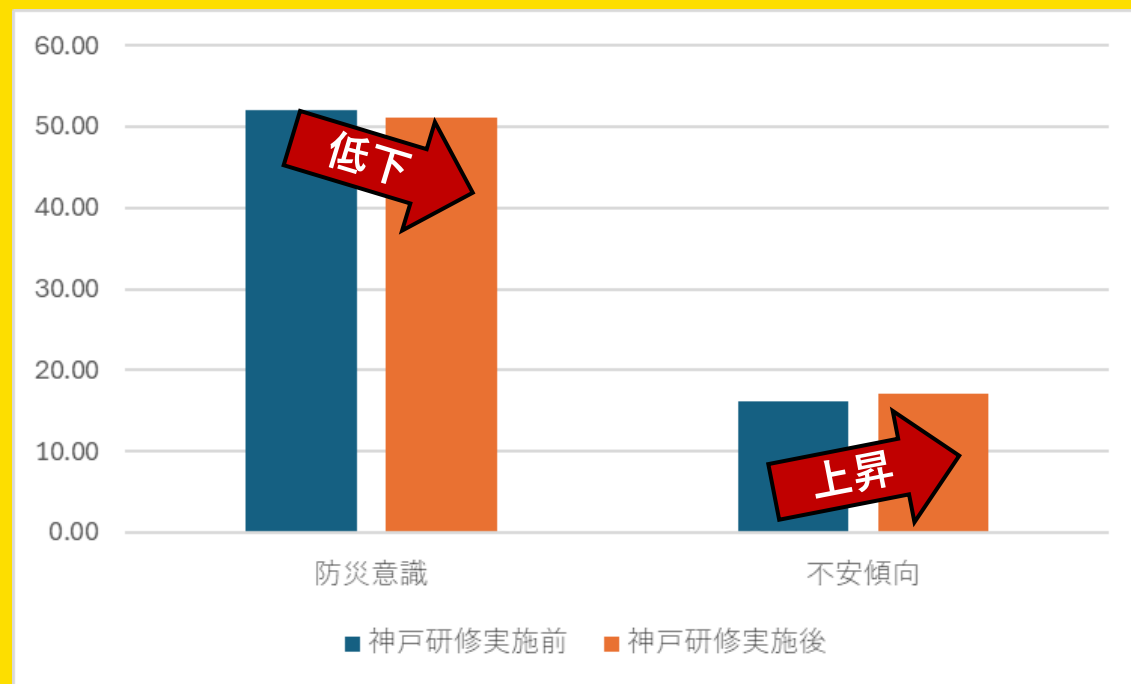
被災状況に対する想像力 + 災害に対する危機感 + 災害に対する関心

不安傾向

- ・ 自分は心配性だと思う
- ・ 不安を感じることが多い
- ・ 災害のことを考え始めると、様々なパターンの被害を妄想してしまう
- ・ 身の回りの危険をいつも気にしている

神戸研修前後の変化

- ・ 防災意識は5%水準で有意に**低下** ($t=2.312$, $p=.022$, $d=.179$)
- ・ 不安傾向は5%水準で有意に**上昇** ($t=-2.519$, $p=.013$, $d=-.195$)

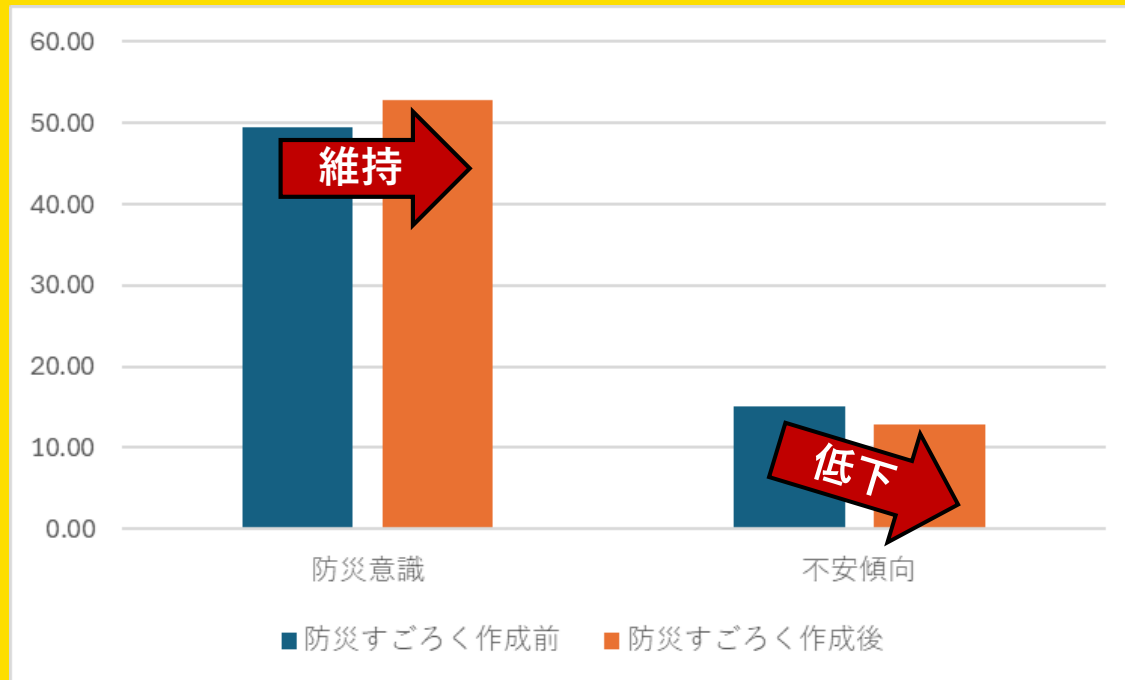


- ・ 防災意識の中でも「災害に対する関心」が下がった
- ・ 「災害に対する関心」と「不安傾向」の間に関連はなかった

	神戸研修実施前		神戸研修実施後	
	M	SD	M	SD
防災意識	52.10	7.75	51.02	7.13
不安傾向	16.15	4.73	17.04	4.76

防災すごろく前後の変化

- ・ 防災意識は維持 ($t=-.767$, $p=.468$, $d=-.271$)
- ・ 不安傾向は5%水準で有意に低下 ($t=2.646$, $p=.033$, $d=.935$)



「被害想定能力」と「不安傾向」
には関連はみられなかった
($r = -.03$, $p = .67$)

	防災すごろく作成前		防災すごろく作成後	
	M	SD	M	SD
防災意識	49.50	5.07	52.88	6.27
不安傾向	15.13	4.29	12.88	3.09

神戸研修と防災すごろくの比較

	神戸研修	防災すごろく
被害想定能力	変化なし	操南で起こりそうな被害を想定するような記述が増えた
防災意識	低下	変化なし
災害への不安	高まった	低下



報告内容

1. 本プロジェクトの意義
2. 防災すごろく作成の過程
3. 防災すごろく実践の様子
4. 本取り組みの検証結果
5. 今後の活動

今後の活動

日付	参加イベント
5/25-5/30	JpGU(日本地球惑星科学連合2025年大会)
9/6-9/7	防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)

まとめ

中学生による地域住民への防災認知向上プロジェクト

- ・ 広域的な大規模災害に備え、減災に必要な自助・共助を高めるために「学区に根差した防災すごろく作り」を中学生とともに実践
- ・ 公民館には、中学生の他に30名の保護者・地域住民が集まった
- ・ 「被害想定能力」の向上と「災害への不安傾向」の低下をもたらした